

学校教育計画（平成28年度～平成31年度）

（1）学校のミッション

知的障害教育部門の特別支援学校として、児童・生徒の自立と社会参加に向け、一人ひとりの障害の状態に応じた就労支援の取組を充実させ、小学部・中学部・高等部を通して、キャリア教育推進のために、一貫した教育を行う。加えて、児童・生徒の主体的な活動を促す教育活動の充実に向け、不断の授業改善に取り組む。

また、共生社会の実現に向け、センター的機能を発揮し、地域の各学校における支援を必要とする児童・生徒等への教育的ニーズに応じた効果的な支援を行うとともに、これらの学校と交流及び共同学習等を通じた、障害のある児童・生徒と障害のない児童生徒との相互理解を図る。

（2）学校教育目標

- 「自立と社会参加」に向け、小中高12年間の「学びの連続性」のある教育を推進する。
- 「わかる授業」実践を通して、児童・生徒の主体的な活動を促し、一人ひとりが持っている力を十分発揮できる教育を推進する。
- 共生社会の実現に向け、特別支援学校が地域で担う役割を模索し、地域と連携した取り組みを進める。

＜めざす学校像＞

- 子どもも大人も安心して力を発揮できる学校
- 保護者や地域から信頼される学校

＜めざす子ども像＞

- 主体的に活動する子ども
- 自己決定できる子ども
- 友だちと協力できる子ども

（3）計画作成時点での課題

- 個別教育計画の書式を統一したところであるが、具体的な活用についてはこれから取り組みを進めるところである。「学びの連続性」をキーワードに、一貫性のある教育についてイメージを共有し、具体的な取り組みを進めることが課題である。
- 研究授業等を通して、「わかる授業」の実現に向けて取り組んできたところである。引き続き、一人ひとりの実態に応じた指導・支援を進めていく必要がある。
- 地域とのつながりを大切にしてきた実績があり、地域とのつながりは良好である。今後はこれまでの関係性を重視しつつ、インクルーシブ教育を推進する際の特別支援学校の果たすべき役割を再度検討し、具体的な実践を進めることが課題となる。

(4) 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	「自立と社会参加」をめざし、小中高一貫した「学びの連続性」のある教育課程の編成と「わかる授業」実践を推進する。	3年計画で行う校内研究「保土ケ谷の学びの連続性～自立と社会参加に向けて育てたい力～」の成果を取り込みながら、教務係を中心に系統的な学びのあり方について整理し、実践に結び付ける。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	児童・生徒一人ひとりの実態及び教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導・支援を組織的に行う。	児童・生徒の実態を多角的に把握した上で、個別教育計画を有効なツールとして活用した指導・支援を進める。
3	進路指導・支援	小中高それぞれのライフステージに沿った進路指導・支援を適切に系統的に行う。	卒業後の生活を意識した学習を生活年齢に応じた形で展開し、それが系統性をもった指導となるよう検討を進める。
4	地域等との協働	誰もが生活しやすい地域作りを進める上で、地域との役割分担や協働について取り組みを進める。	地域の資源を活用し、児童・生徒が地域で活躍できる場を拡大する。 地域に向けた研修会等、地域への情報発信に努める。
5	学校管理 学校運営	安心・安全な教育環境を整え、人権に配慮した教育活動を推進する。	学校運営上の各種マニュアルをより具体的・実践的に活用できるよう確認を進める。